

名称：災害時における防災行政無線補完のためのFM放送システム
(防災FM補完システム)

長野県塩尻市

V-Lowマルチメディア放送

- 塩尻市においては、2013年頃のV-Lowマルチメディア放送の導入時点において、塩尻市のような地域でのサービスの提供がどのような影響を及ぼすのかについては、研究を行っていました。
- 結果として、地域としての導入への対応には至っておりません。
- ただし、電波の利用の面、住民への情報提供方法、技術的視点による展開、サービスとしての在り方など、様々な要素が必要であることは認識できました。
- そのうえで、今回、被害が増大している災害の現状を踏まえて、提案をさせていただきました。

防災無線における状況

- 自治体において、防災行政無線（60MHz帯のデジタルまたはアナログ同報通信）は、屋外拡声装置や個別受信機によって、住民に対して情報伝達を行っています。
- また、それを補完するように、公式ホームページや公式Twitter、公式LINE、緊急メールシステム等、複数のチャネルを活用して、情報提供を行っております。
- しかしながら、昨今の気象変動も相まって、予測困難な大規模災害が発生しており、よりきめ細かな情報伝達手段を確保することが求められています。

南木曾土石流

蘇南高校教頭の話の要約

(平成20年8月21日付け信濃毎日新聞朝刊より引用、斜字部分は引用)

- ・職員室は雨で声が聞きとりにくい状況。
- ・一部生徒は帰宅させてしまった。
- ・被害が出なかったのは結果論。
- ・学校に残しておけばよかった。
- ・災害情報は提供されるものと考えていた。

情報を収集して確認し、判断するには、情報が提供されるのを待つだけでは対策できない。



情報提供の方法にも課題があるのではないか。

千曲川氾濫災害

2019年の千曲川氾濫の災害の引き金になった台風19号

(平成31年3月15日付け信濃毎日新聞朝刊より引用、斜字部分は引用)

- ・長野県をはじめ、東京都など一部の自治体では
公式ホームページにアクセスが集中してしまい、閲覧しにくい状況が生じた。
- ・ハザードマップを分割して提供する首長もいた。
- ・動画コンテンツによる提供も要因。

- ・防災無線の避難指示についても、避難判断について課題があり、
氾濫に対応できなかった。
- ・過去に起きた災害を教訓にできなかった。

コロナ感染情報も含めて、動画による情報提供が増え
提供側の環境に、費用を含めて対策が必要。



本当に必要な情報は、どのように届けるべきなのか

北陸大雪

- ・予想を超える積雪により、スタックした車両が一台いることによって、除雪が間に合わなくなってしまう。
- ・そのため、道路上の渋滞が発生し、長時間の渋滞が発生。
- ・車両の運転手などは、どのような状況になっているか情報不足で判断できないことが多い。
- ・情報提供側も正確な情報を提供することができない場合が増えている。
- ・数年前にあった、関東の大雪の際も、JRの車両に残された者など、情報の把握が難しくなっている。

移動体における情報収集については、流通に影響が生じることもあるが、現状の情報提供でいいのか？



移動体への情報提供(特に車両)については、安全性も考えると音声の情報が必要。

災害時における防災行政無線補完のためのFM放送システム (防災FM補完システム)

従来の情報提供方法では、
すべての人に情報が届かない。
そのため、被害が拡大することが
ある。

FM放送を生かして情報提供を行う
ことで、移動体内部、避難施設など
の条件不利の状況下においても、
情報を提供することが可能である。



+ Twitter
+ LINE
+ mail

